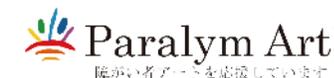




個人投資家向け 会社説明会

2024年7月3日

昭和産業株式会社
<https://www.showa-sangyo.co.jp>



■ Agenda

I. 昭和産業グループの概要

II. 昭和産業グループの成長戦略

III. 業績予想・配当・優待制度

I. 昭和産業グループの概要

会社概要 <2024年3月末現在>



創業者
伊藤英夫



代表取締役社長執行役員
塚越 英行

商号	昭和産業株式会社 Showa Sangyo Co.,Ltd.
本社所在地	東京都千代田区内神田2丁目2番1号
設立	1936年2月18日
資本金	14,293百万円
主要事業	小麦粉、植物油、糖化製品、二次加工食品などの製造販売、 配合飼料の販売、倉庫業など
従業員数(連結)	2,858名
グループ会社数	43社(子会社28社、関連会社15社)

昭和産業グループのあゆみ

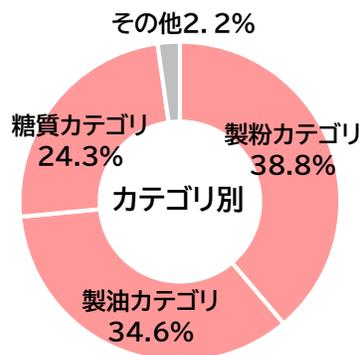
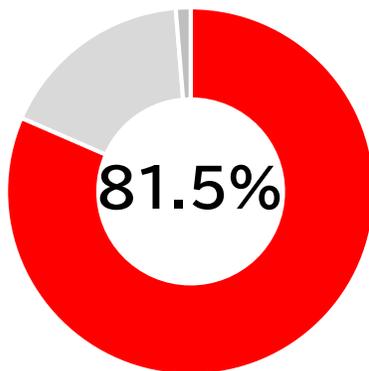
創業期(1936年~) 深刻な食糧不足	60年~1980年代 需要拡大と食生活の多様化	1990年~2000年代 「食」ニーズの高度化	2010年~ ライフスタイル・価値観の変化
<p>農産加工分野で一貫体制を構築し、農業の発展に貢献</p> <p>1936年 設立 創業者・伊藤英夫 </p> <p>食の多様化を見据えた挑戦と創意で進化</p> <p>1956年 ・4代目取締役社長・松本幸三 ⇒現在の昭和産業の礎を築く ・『結晶ぶどう糖』発売 </p> <p>1957年 『昭和のホットケーキの素』 発売 </p> <p>1960年 世界初「家庭用天ぷら粉」発売 「米国ロサンゼルスで SHOWA TEMPURA BATTER MIX」発売</p> <p>1961年 『昭和即席天ぷら粉』国内発売 →国内で大ヒット </p> <p>「天ぷら粉の昭和」 のブランドイメージを確立</p>	<p>食品コンビナートの建設による、 多品種安定供給の実現</p> <p>1961年 鶴見工場竣工 我が国初の臨海食品コンビナート完成</p> <p>1965年 船橋食品コンビナート完成 (現船橋工場) </p> <p>1970年 神戸食品コンビナート完成 (現神戸工場)</p> <p>1973年 現、本社ビル完成 </p> <p>1974年 鹿島工場竣工 </p> <p>1976年 敷島スターチを子会社化</p> <p>1983年 高級天ぷら粉 『天ぷら粉黄金』発売 </p> <p>1984年 炊飯用はい芽油カプセル 『お釜にポン』発売 </p>	<p>幅広い分野で商品開発を強化、時 代にマッチした商品を提供</p> <p>1991年 食品開発センターを開設</p> <p>1992年 『お肉をやわらかくするから揚げ粉』 発売 </p> <p>1994年 特定保健用食品 『オリゴタイム』発売 </p> <p>2000年 高オレイン酸ひまわり油 『オレインリッチ』発売 </p> <p>2002年 昭和冷凍食品を設立</p> <p>2005年 ・『ケーキのような ホットケーキミックス』発売 ・スウィングベーカリー設立 </p> <p>2009年 奥本製粉を子会社化</p>	<p>“穀物ソリューション・カンパニー” として独自の付加価値を創出</p> <p>2011年 『レンジでチンするから揚げ粉』発売 </p> <p>2014年 ・企業ブランドメッセージ発表 ・セントラル製粉に資本参加(2018年子会社化) ・中国での製粉事業に進出</p> <p>2015年 グランソールベーカリー設立 2017年 長期ビジョン発表</p> <p>2018年 ・Showa Sangyo Vietnam Co., Ltdを設立 ・ガーデンベーカリーを子会社化</p> <p>2020年 ・台湾での製粉事業、鶏卵事業に進出 ・ポーソー油脂を子会社化 ・『健康こめ油』発売  ・サンエイ糖化を子会社化</p> <p>2022年 ・船橋プレミックス第2工場操業 ・『もう揚げない!! 焼き天ぷらの素』発売 </p> <p>2023年 ・辻製油と資本業務提携 ・『たっぷり大豆ミートのクリームソース』 発売 </p> <p>2024年 『魔法のホットケーキミックス』発売</p>

事業セグメント

食品事業

2023年度(2024年3月期)
売上高 2,823億円(※1)

※1 食品事業:製粉、製油、糖質カテゴリの合計



製粉カテゴリ 事業内容

パン、ケーキ、麺類などの用途に合わせた各種小麦粉、プレミックス類・パスタ、冷凍パン生地等を製造・販売



製油カテゴリ 事業内容

天ぷらやフライ、ドーナツなどの各種植物油や飼料原料などになる脱脂大豆、食肉加工・水産加工食品に使用される大豆たん白を製造・販売



糖質カテゴリ 事業内容

コーンスターチをはじめ、ぶどう糖や異性化糖、水あめなどの糖化製品および加工でん粉製品の製造・販売



飼料事業

2023年度
 (2024年3月期)
売上高 594億円

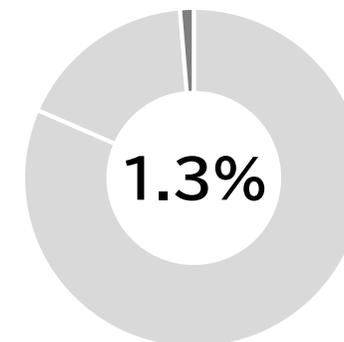


養鶏用、養豚用、養牛用、養魚用の配合飼料の製造販売。鶏卵の販売。未利用原料の活用



その他

2023年度
 (2024年3月期)
売上高 45億円



輸入穀物の保管・荷役を行う倉庫業、所有不動産の賃貸などを行う不動産業のほか、保険代理業、自動車などのリース業、運輸業、アグリビジネス等

販売先など

食品事業

製粉カテゴリ

販売先

- ▶食品メーカー
パン、麺、菓子等
- ▶中食
(スーパーマーケット、コンビニ)
- ▶外食産業
(ファミリーレストラン、居酒屋)
- ▶スーパー等(家庭用)

製粉カテゴリの強み

- ・技術知見を駆使した開発力提案
- ・グループ企業含め7カ所の生産拠点
- ・多様かつ豊富な販売チャンネル
- ・高い技術力による海外事業展開
(東アジア、東南アジア)

製油カテゴリ

販売先

- ▶食品メーカー
調味料、菓子、飲料等
- ▶中食
(スーパーマーケット、コンビニ)
- ▶外食産業
(ファミリーレストラン、居酒屋)
- ▶スーパー等(家庭用)

製油カテゴリの強み

- ・多様な油種原料の搾油生産
- ・幅広い販売チャネルや最終商品に最適な油脂製品の提案
- ・東西の自社工場を中心に、グループ企業・協力工場を活用した効率的な生産体制

糖質カテゴリ

販売先

- ▶食品メーカー
菓子、パン、飲料、ビール、調味料
- ▶医薬品メーカー 等

糖質カテゴリの強み

- ・業界トップレベルの事業規模
- ・結晶ぶどう糖市場で約70%のシェア
(当社調べ)
- ・グループを合わせた3製造拠点による安定供給体制
- ・プレミックス事業、製油事業など他事業との親和性

飼料事業

販売先

- ▶畜産事業者
養鶏、養豚、養魚
- ▶スーパー等
(鶏卵販売)

飼料事業の強み

- ・日本有数の飼料需要地である鹿島エリア(茨城県)、志布志エリア(鹿児島県)にグループ生産拠点を保有
- ・他事業から発生する副産物による安定的な飼料原料の供給体制
- ・グループ会社を含めたサイロ事業との連携

その他

- ▶倉庫業では、輸入商社とのパートナーシップを強化し、原料穀物の安定調達に努めます
- ▶植物工場では「持続可能なアグリビジネスの構築」を目指します

倉庫業の強み

- ・グループ会社を合わせた穀物収容能力は国内トップクラス
- ・食品メーカーとして穀物取扱量は日本一(当社調べ)

植物工場の強み

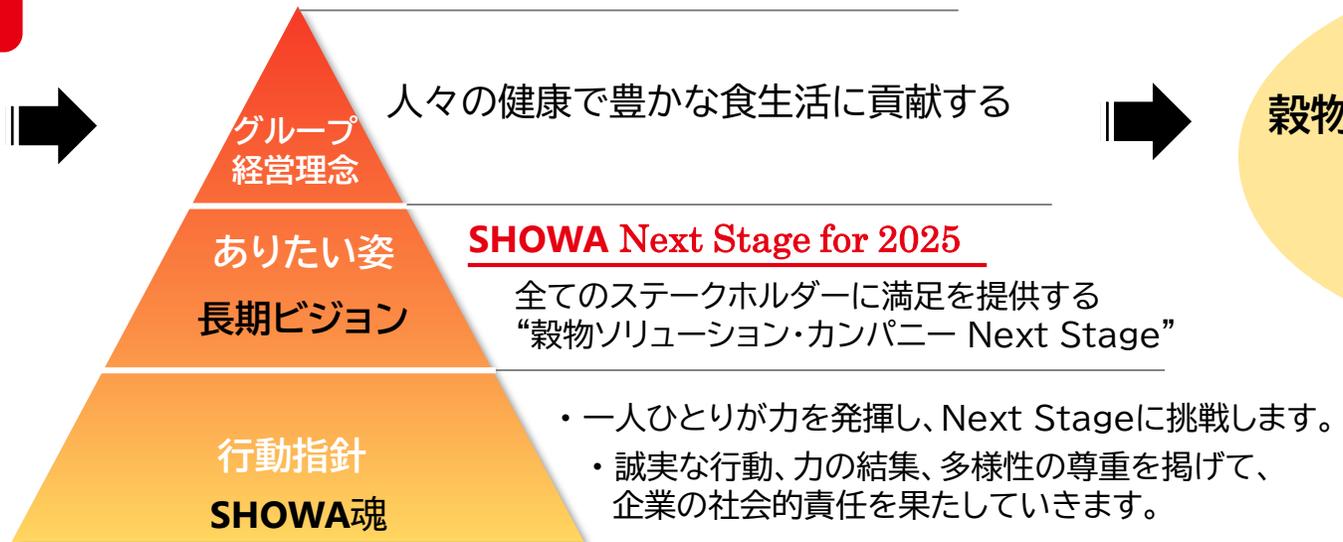
- ・食品メーカーとして長年培った生産管理・品質管理等の技術
- ・一般財団法人日本GAP協会のJGAP認証取得

プロフィール&プレゼンス (2024年3月31日現在)

売上高 (連結)	経常利益	時価総額
3,463億円	165億円	1,170億円
穀物取扱量	穀物サイロ収容能力	結晶ぶどう糖(食用・医療用)
No.1 ※当社調べ	国内No.1 ※当社調べ	国内シェアNo.1 ※当社調べ
家庭用ホットケーキミックス	食品リサイクル率	CO ₂ 排出量削減率
国内シェアNo.1 ※当社調べ	99.9% ※昭和産業単体	27.0% (2013年度比)
		※2030年度目標:46%以上削減

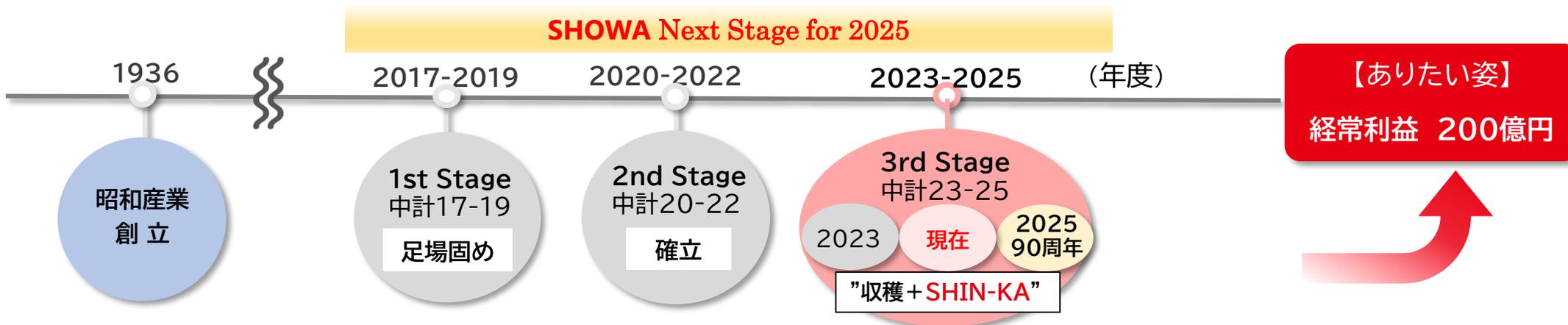
経営理念・行動指針・長期ビジョン

経営理念・行動指針

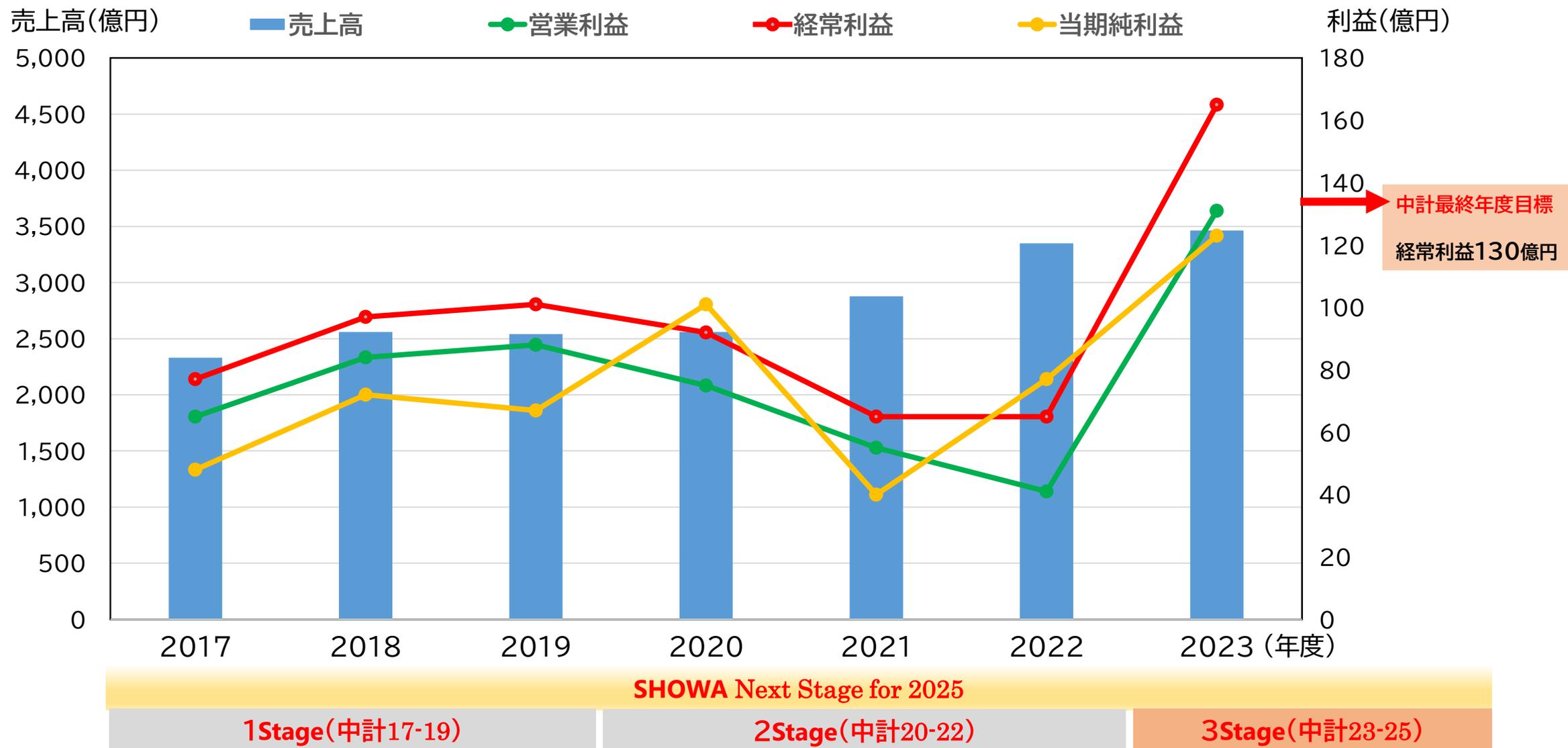


長期ビジョン

創立90周年を迎える2025年度の“ありたい姿”として、2017年に長期ビジョンを策定。この“ありたい姿”に向けて成長するために、3年間の中期経営計画を3次にわたり展開。



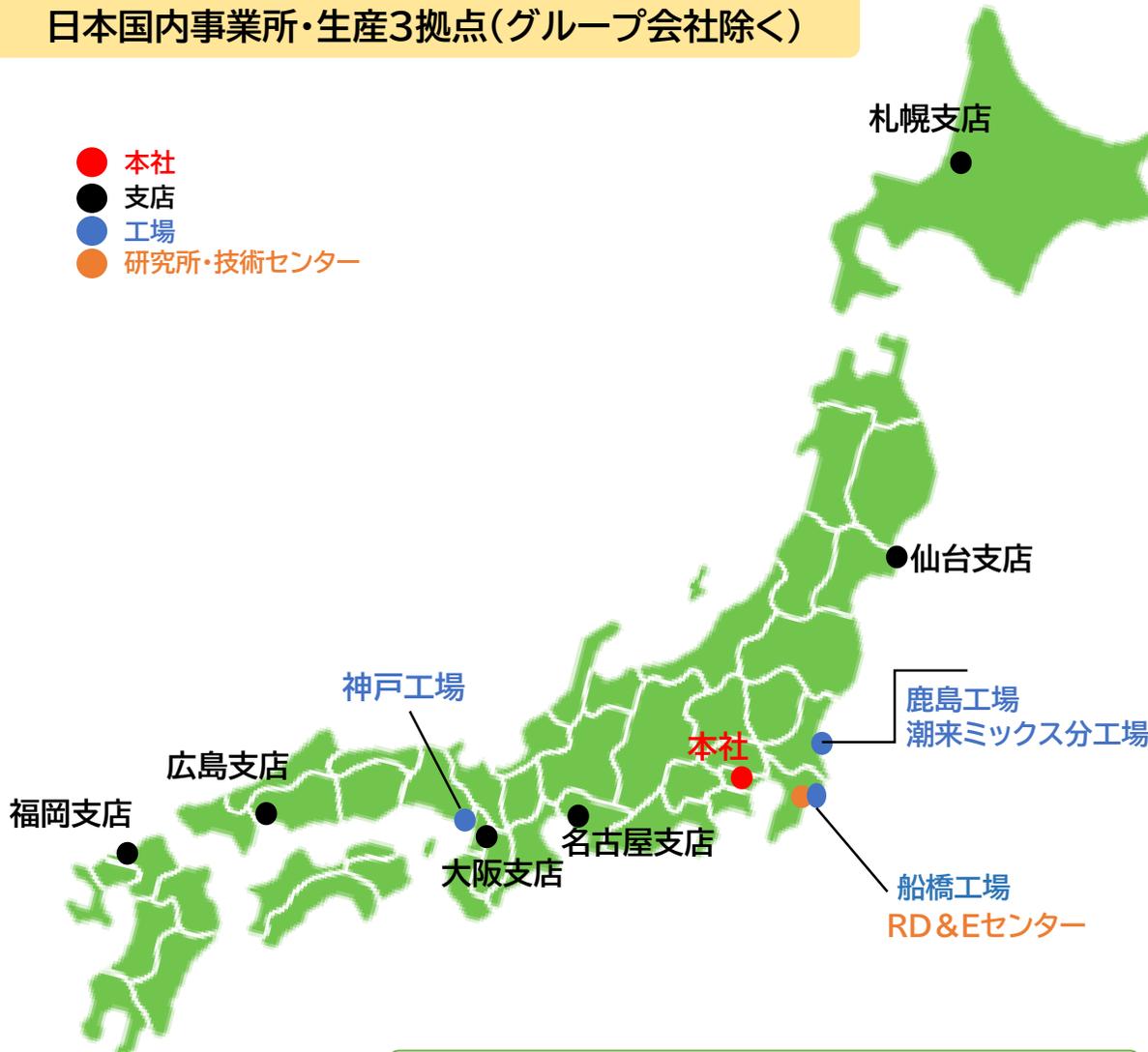
昭和産業グループの経営成績の推移



事業拠点

日本国内事業所・生産3拠点(グループ会社除く)

- 本社
- 支店
- 工場
- 研究所・技術センター



グループ会社: 43社(子会社28社、関連会社15社)

海外事業



中国

▶大成昭和食品

・小麦粉、プレミックスの製造及び販売



台湾

▶國成麵粉

・小麦粉の製造及び販売

▶中一食品

・鶏卵の生産・洗卵・選別、飼料の購入及び販売



バトナム

▶昭和産業インターナショナルバトナム

・プレミックスの製造及び販売
 (2025年操業開始予定)

グループ会社紹介

● 連結子会社 ▼ 非連結子会社 ■ 持分法適用会社 □ 持分法非適用会社

会社名	事業内容
● 昭産商事株式会社	食料品及び飼料の卸売、保険代理業ほか
● 敷島スターチ株式会社	でん粉・加工でん粉・糖化製品の製造及び販売
● 九州昭和産業株式会社	配合飼料の製造及び販売、畜産物の販売
● 奥本製粉株式会社	小麦粉・プレミックス・パスタなどの製造及び販売
● 木田製粉株式会社	小麦粉・プレミックスの製造及び販売
● 株式会社内外製粉	小麦粉の製造及び販売
● 昭和冷凍食品株式会社	冷凍食品の製造及び販売
● 昭和鶏卵株式会社	鶏卵の洗卵・選別、飼料の購入及び販売
● 昭産開発株式会社	商業ビルなど不動産の賃貸業
● 株式会社昭産ビジネスサービス	昭和産業グループ各社に対する経営コンサルティング業ほか
● 株式会社ショウレイ	冷凍・冷蔵倉庫業
● 昭産運輸株式会社	自動車運送業及び荷役業
● 株式会社スウィングベーカリー	パンの製造及び販売
● 株式会社オーバン	和菓子材料及び機械の卸売
● グランソールベーカリー株式会社	冷凍パン生地製造及び販売
● セントラル製粉株式会社	小麦粉の製造販売
● ガーデンベーカリー株式会社	パンの製造及び販売
● タワーベーカリー株式会社	パン・冷凍パン生地製造及び販売
● スターベーカリー株式会社	不動産賃貸業
● ボーソー油脂株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売
● 長岡油糧株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売

会社名	事業内容
● クマイ油脂株式会社	石鹼、脂肪酸の製造及び販売
● ムサシ油脂株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売
● 南日本コメ油株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売
● 東京油脂工業株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売
● サンエイ糖化株式会社	糖化製品・乳酸菌・ビフィズス菌の製造及び販売
▼ 岡田運送株式会社	貨物自動車運送業
▼ Showa Sangyo Vietnam Co., Ltd.	食品工場向け技術コンサルティング業
■ 鹿島サイロ株式会社	穀物サイロ業
■ 志布志サイロ株式会社	穀物サイロ業
■ 新日本化学工業株式会社	食品用酵素の製造販売
■ 名古屋埠頭サイロ株式会社	穀物サイロ業
■ 國成麵粉股份有限公司	小麦粉の製造及び販売
■ 中一食品股份有限公司	鶏卵の生産・洗卵・選別、飼料の購入及び販売
■ 辻製油株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売
□ 鹿島飼料株式会社	配合飼料の製造販売
□ 田中製餡株式会社	和洋菓子の製造販売
□ 東葛食品株式会社	中華点心(饅頭)の製造販売
□ 共同輸送株式会社	自動車運輸業
□ 大成昭和食品(天津)有限公司	プレミックスの製造販売
□ INTERNATIONAL MIX JOINT-VENTURE COMPANY	プレミックスの製造販売
□ 株式会社ケイエスファーム	養鶏農場の運営
□ 三重県製粉サイロ株式会社	穀物サイロ業

業界シェアについて

製粉業界

小麦粉販売数量

第3位 9.3%

■引用元

酒類食品統計月報2023年8月号

1位:日清製粉	39.1%
2位:ニッポン	24.4%
3位:昭和産業(単体)	9.3%
4位:日東富士製粉	7.1%

製油業界

植物油販売数量

第3位 9.8%

■引用元

酒類食品統計月報2023年7月号

1位:日清オイリオG	35.9%
2位:J-オイルミルズ	25.5%
3位:昭和産業G (ボーソー油脂含)	9.8%
4位:理研農産加工	3.0%

糖質業界

結晶ぶどう糖

シェアNO.1

(原料処理量 業界トップクラス)

■引用元

日本スターチ・糖化工業会

【同業他社(※)】

日本食品化工(東証スタンダード)
 加藤化学 (非上場)
 日本コーンスターチ(非上場)

※業界大手の東証プライム企業は当社のみ

専門メーカーとの違い

穀物ソリューション・カンパニー ▶ **「穀物」×「おいしい答え」=「穀物ソリューション」**をお届けするのが私たちの使命

🔊 **食品メーカーとして穀物の取扱量は日本一※**
※当社調べ



1社で、**4種類の穀物を扱う食品メーカーは当社のみ**

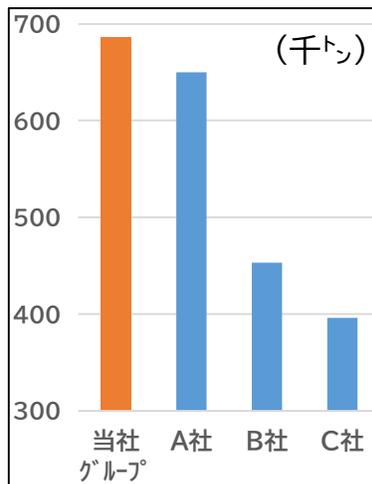
<取扱穀物>
4種類



当社グループ**穀物サイロ収容能力、国内トップクラス※!!**
※当社調べ



鹿島・神戸・船橋の各臨海工場に
 自社穀物サイロを所有



当社グループ 68.6万トン
 (昭和産業単体 36.5万トン)

🔊 4種類の穀物を徹底的に研究する「穀物のプロ集団」
**多種多量な穀物をプラットフォームとして
 幅広い事業展開**



1つの会社で**製粉、製油、糖質の工場**をもつ食品メーカーは
当社のみ。

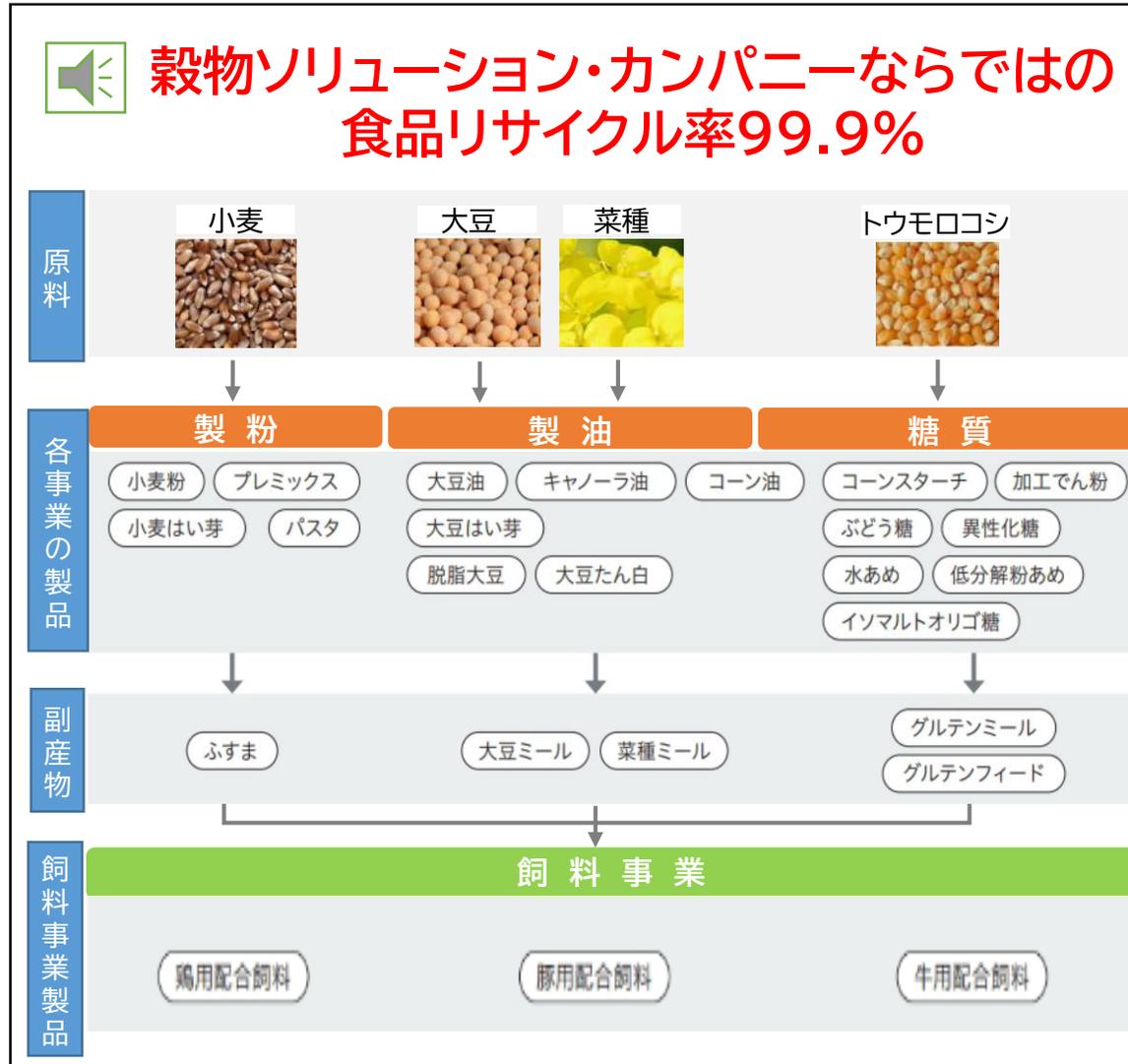
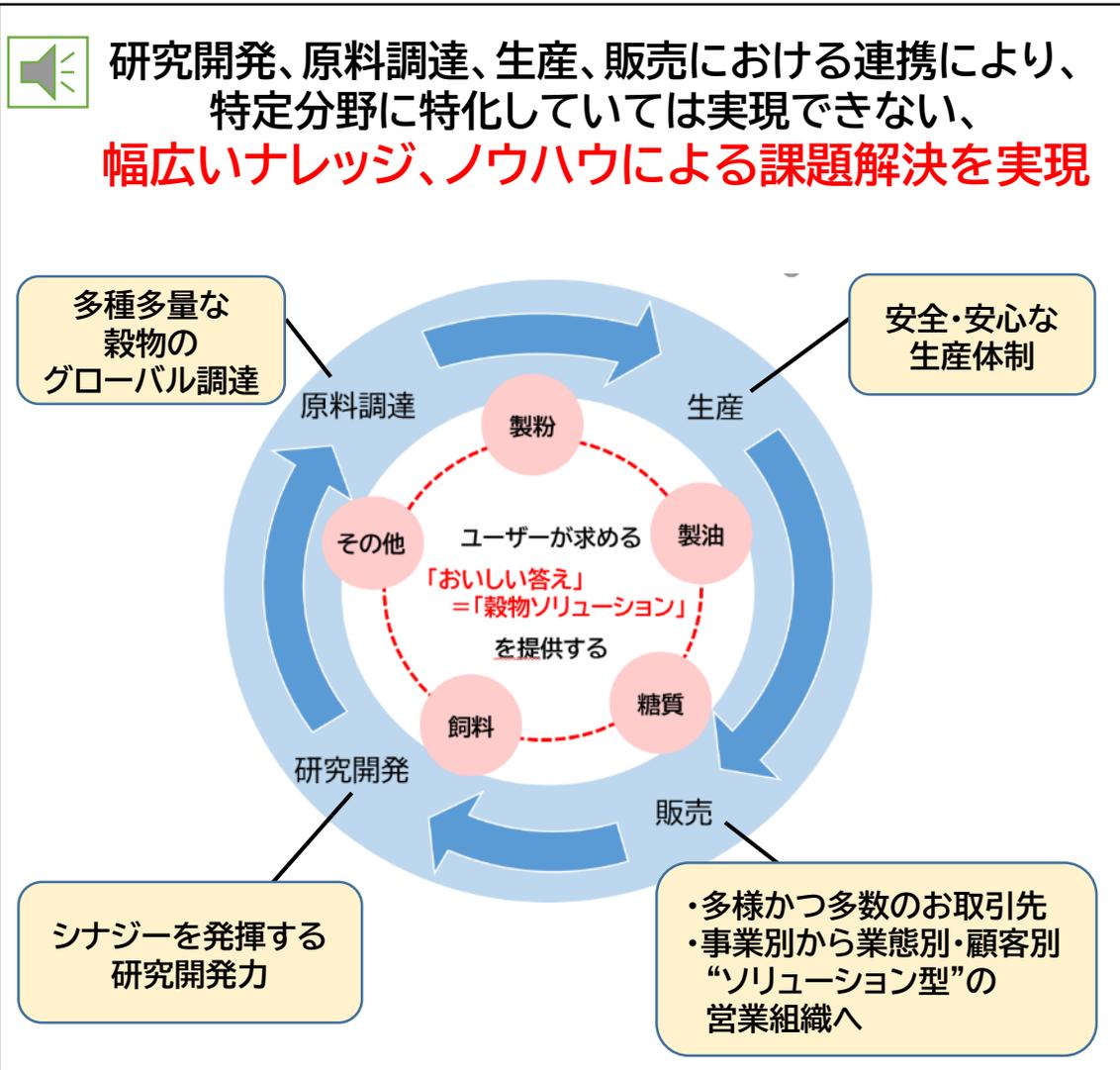
様々な業界に製品を提供し、
 多くのお客様に支えられています



『多様なお客様とのコミュニケーション』で
穀物ソリューションを実現

専業メーカーとの違い

昭和産業グループのユニークなビジネスモデル



専門性 & 複数の食品素材によるソリューション

スピーカー アイコン ベーカリー等のフライオイル

- ・カレーパンのサクサク感を維持したい
- ・テイクアウトや商品陳列時の油染みを防ぎたい



テイクアウト



経時による劣化が品質低減の原因に

→経時変化の低減と品質の両立を実現

消費者目線で品質分析

改善案の考察

- ✓ サクみの維持
- ✓ 油染みの低減
- ✓ 適度なしっとり感



半流動性油脂



スピーカー アイコン カフェ飲料向け油脂

- ・無糖、微糖ラテを作るには、牛乳の配合量に制限がある
- ・ラテのミルクの風味が足りない
- ・コーヒーとミルクのバランスが悪い

→ミルク感の増強、風味のバランスを実現

デキストリン(粉あめ)と油脂のご提案

■デキストリン(粉あめ)



→コク
(ミルク風味の付与)

■各種油脂



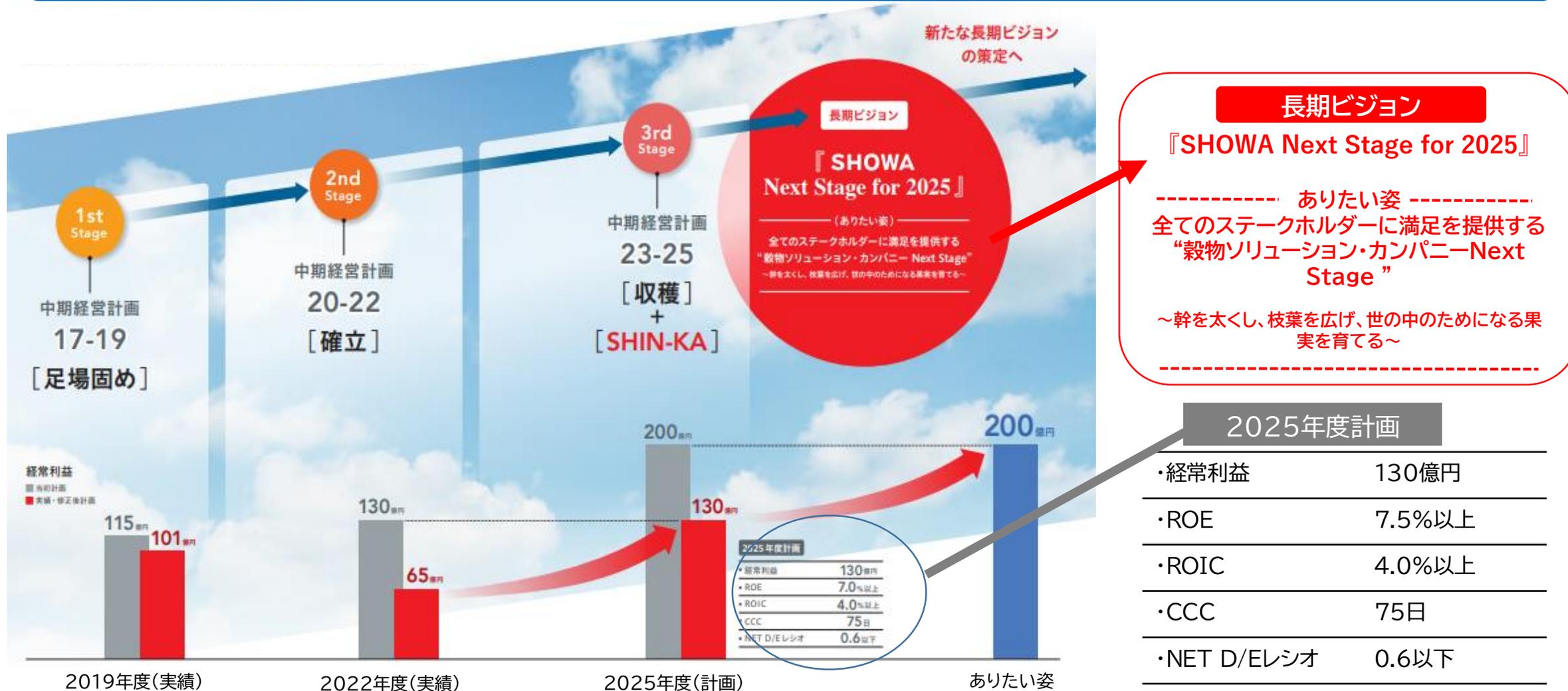
→ボディ感
(乳脂肪分の付与)

飲料に糖質から油脂の提案⇒提案幅の広がり

Ⅱ. 昭和産業グループの成長戦略

長期ビジョンの戦略概要

創立90周年を迎える2025年度の「ありたい姿」として、長期ビジョン『SHOWA Next Stage for 2025』を策定。2017～2025年度の9年間、3年間の中期経営計画を3次にわたり展開しています。



長期ビジョン
 『SHOWA Next Stage for 2025』
 ----- ありたい姿 -----
 全てのステークホルダーに満足を提供する
 “穀物ソリューション・カンパニー Next Stage”
 ~幹を太くし、枝葉を広げ、世の中のためになる果実を育てる~

2025年度計画

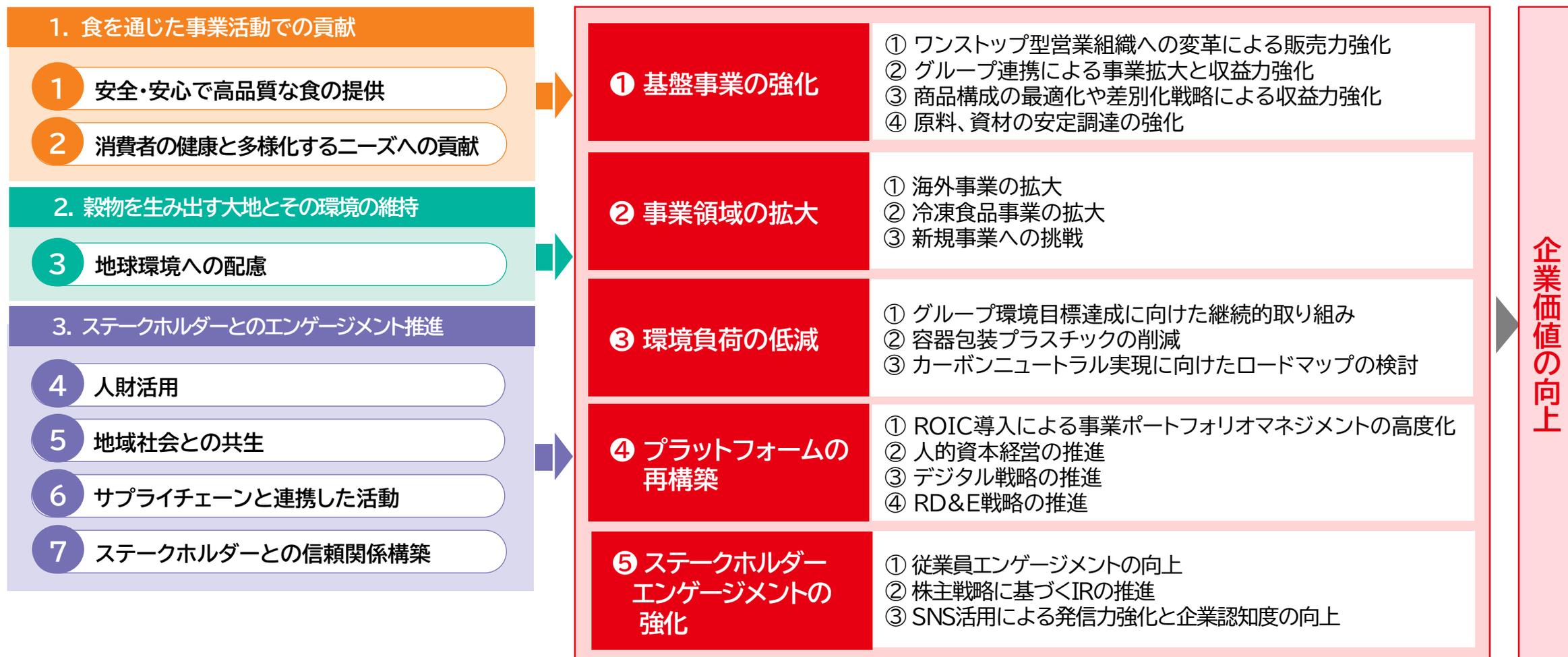
・経常利益	130億円
・ROE	7.5%以上
・ROIC	4.0%以上
・CCC	75日
・NET D/Eレシオ	0.6以下

「中期経営計画23-25」5つの基本戦略

基本戦略の策定にあたり、持続的な企業価値向上に向けた重要課題(=マテリアリティ)を再確認。社会の公器として“7つのマテリアリティ”を特定し、基本戦略に反映。

マテリアリティ

『中計23-25』基本戦略



「中期経営計画23-25」<重点施策による定量効果>

2023年度(2024年3月期)は、2025年度計画目標値である経常利益130億円をクリア。
⇒「事業環境の回復・環境変化への対応」において、目標値を大きく上回る結果。

■23-25中計目標(対2022年度比)+27億円

■23-25中計目標(対2022年度比)+8億円

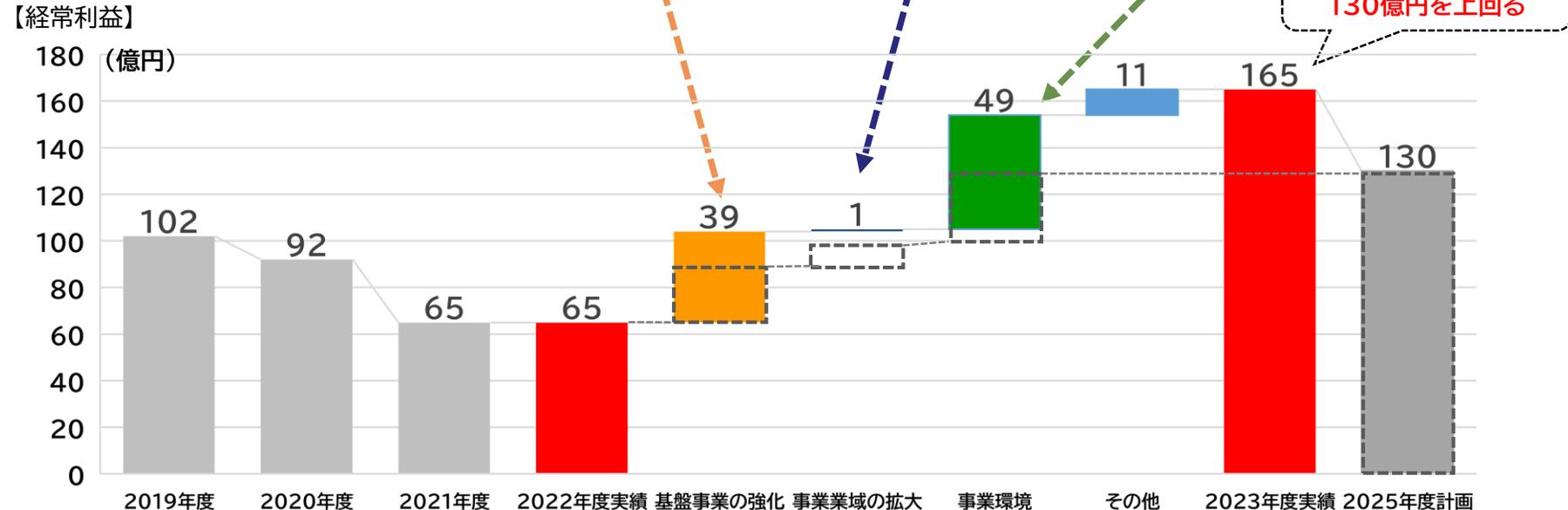
■23-25中計目標(対2022年度比)+30億円

基本戦略① 基盤事業の強化 +39億円	
1. 穀物ソリューションの進化	+3億円
2. グループ連携による事業規模拡大と収益力強化	+17億円
3. 商品構成の最適化	+6億円
4. 差別化戦略による付加価値商品の拡販	+13億円

基本戦略② 事業領域の拡大 +1億円	
1. 海外事業の拡大	+1億円
2. 冷凍食品事業の拡大	0

事業環境の回復・環境変化への対応 +49億円	
1. 販売数量の回復	+5億円
2. 適正な価格改定	+44億円

2025年度 財務KPI	
経常利益(億円)	130
ROE (%)	7.0以上
ROIC※ (%)	4.0以上
CCC (日)	75
NET D/ELレシオ	0.6以下



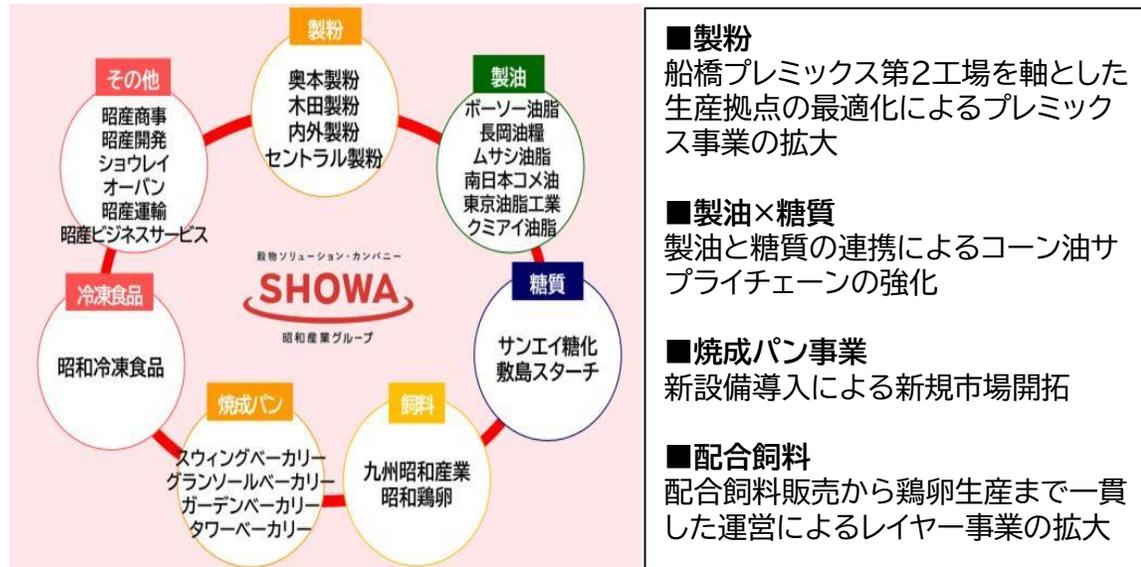
※ROICの定義
ROIC = 税引後営業利益 ÷ 投下資本(有利子負債(Net) + 自己資本)
税引後営業利益は、法人税等を営業利益の30%として計算

2023年度実績	
経常利益(億円)	165
ROE(%)	10.2
ROIC(%)	5.3
CCC(日)	87.3
NET D/ELレシオ	0.35

「中期経営計画23-25」経営戦略 (今後の重点施策)

基本戦略① 基盤事業の強化

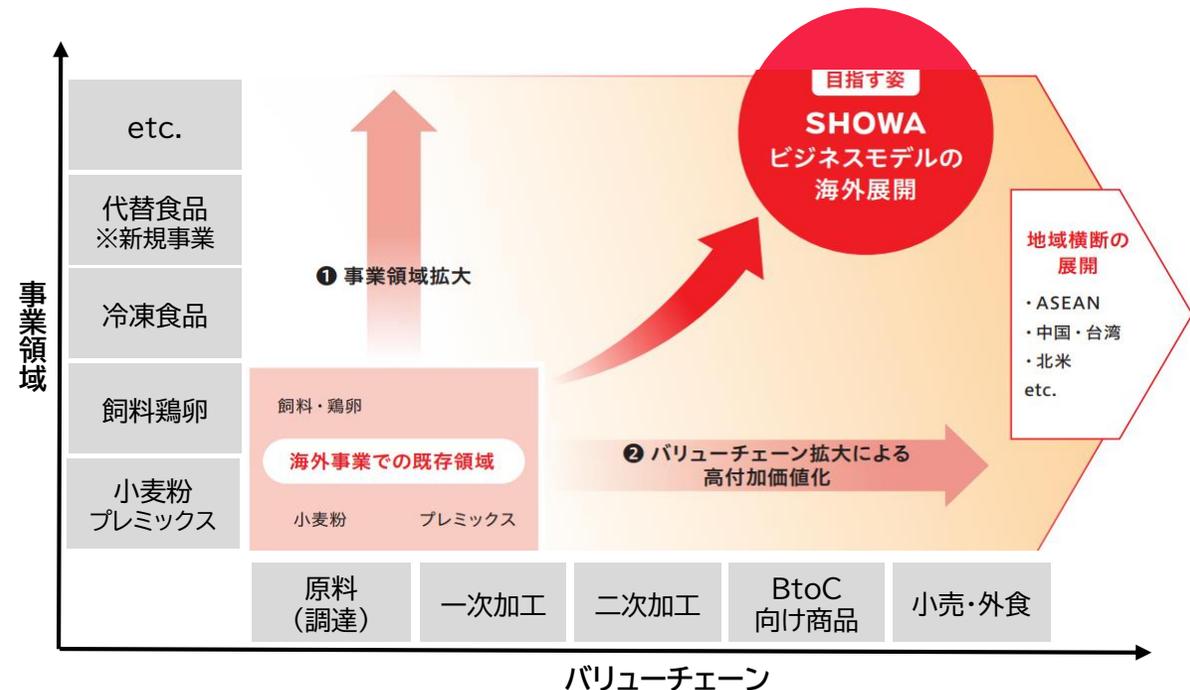
- ▶ 「ワンストップ型」営業組織への変革による販売力強化
 業態別・顧客別営業体制を生かし、様々なカテゴリの商品をお客様のニーズに合わせてワンストップで提供することで穀物ソリューションのさらなる進化を目指す
- ▶ グループ連携による事業拡大と収益力強化
 上昇するコストに対して、グループ一体となり事業構造を改革することでさらなるコスト圧縮を進める



- 製粉
 船橋プレミックス第2工場を軸とした生産拠点の最適化によるプレミックス事業の拡大
- 製油×糖質
 製油と糖質の連携によるコーン油サプライチェーンの強化
- 焼成パン事業
 新設備導入による新規市場開拓
- 配合飼料
 配合飼料販売から鶏卵生産まで一貫した運営によるレイヤー事業の拡大

基本戦略② 事業領域の拡大

- ▶ Showa Sangyo International Vietnamの垂直立ち上げに向けた体制の整備
- ▶ 輸出事業の拡大
 現在の主な輸出先であるASEAN地域でのさらなる需要の取り込みと、北米・欧州での拡販を進める
- ▶ 海外新規事業への挑戦



「中期経営計画23-25」経営戦略 <サステナビリティ経営>

基本戦略③ 環境負荷の低減

「昭和産業グループ環境目標」の確実な達成に向け、「中期経営計画23-25」の最終年度となる2025年度の目標値を設定

KPIと目標

	基準年	中期経営計画目標(2025年度)	昭和産業グループ環境目標	2023年度実績
CO ₂ 排出量削減	2013年度対比	▲30%以上	2030年目標 ▲46%以上	基準年度比 27%削減
食品ロス削減	2018年度対比	▲30%以上	2025年目標 ▲30%以上	基準年度比 33.6%削減
水使用量削減 (原単位)	2019年度対比	▲9%以上	2030年目標 ▲12%以上	基準年度比 8.3%削減
NEW プラスチック使用量削減 ^{※1} (原単位)	2013年度対比	▲7%以上	2030年目標 ▲25%以上	基準年度比 6.2%削減

※1 化石燃料由来容器包装材に使用するワンウェイプラスチック

- ・2023年度 : 製油工場環境へ配慮した自然冷媒を用いた冷却方式と真空発生装置を採用 → 1,000tの削減
- ・2024年度(予定) : 船橋工場、潮来工場、RD&Eセンターの購入する電力をカーボンニュートラルに切替 → 7,500tの削減(船橋6,500+潮600+RD&E400)
- ・2025年度(予定) : バイオマス発電ボイラ新設 → 3万7,000tの削減

「中期経営計画23-25」経営戦略 <サステナビリティ経営>

基本戦略④ プラットフォームの再構築

1. ROIC導入による事業ポートフォリオマネジメントの高度化

基盤事業(製粉、製油、糖質、飼料)より安定的に投資原資を創出し、
 将来の収益基盤となる海外事業、冷凍食品事業、焼成パン事業に対して重点的に投資を行うことで
 外部環境の変化に左右されにくい収益構造へと変革していきます

2. 人的資本経営の推進

中期経営計画目標

D&Iのドラスティックな推進	女性管理職比率: 2025年度10%以上 ・「えるぼし(2つ星)取得 ・2024年4月現在 ・女性管理職比率 9.6%
戦略的人的資本投資の促進	リスク投資額: 2025年度2倍以上(2021年度比)
従業員エンゲージメントの向上	エンゲージメントスコア: 中計23-25期間中に目標値公表

- ・障がい者雇用の推進…法定雇用率(2.5%)を達成。
 →2024年5月末現在:2.66%
- ・健康経営優良法人2023(大規模法人部門)に認定

3. デジタル戦略の推進

中期経営計画目標

デジタル化推進	デジタル化推進費: 3年間で45億円 (うち成長投資:12億円)
【主要施策①】多角的分析 DB・ダッシュボード度入	・顧客情報の有効活用による 営業変革 ・コスト削減: ▲6千万円/年
【主要施策②】 DX推進人財育成	・将来のDX推進人財:100名育成 ・ノーコード開発ツールの展開による コスト削減: ▲7千万円/年

「中期経営計画23-25」経営戦略 <サステナビリティ経営>

基本戦略⑤ ステークホルダーエンゲージメントの強化

適切な情報開示をタイムリーに行い、ステークホルダーの皆様との対話を推進することで信頼向上に努めております。

従業員

- ・D&Iのドラスティックな推進
- ・戦略的人財育成の推進
- ・従業員エンゲージメントの向上
- ・健全な労使関係の継続

(成果・影響)

- ・昭和産業健康宣言の取り組み
→健康経営優良法人2023
- ・女性管理職比率9.6% (2024年4月現在)
- ・えるぼし(2つ星)取得

株主・投資家

- ・継続的、安定的な利益還元
- ・個人株主、国内外の機関投資家へのIR強化
- ・トップとの対話機会の提供

(成果・影響)

- ・統合報告書の発行
- ・株主への情報提供
- ・アナリスト向け、個人投資家向け説明会開催



お客様・お取引先

- ・事業シナジーを追求した営業体制への進化
- ・「消費者志向自主宣言」の実践
- ・サステナビリティ調達の実現
- ・情報発信力の強化

(成果・影響)

- ・お客様の声を生かした商品開発
- ・安全で高品質な商品の提供
- ・ニーズに貢献する商品開発
「健康」「環境」「時短簡便」

地球環境・地域社会・NGO/NPO

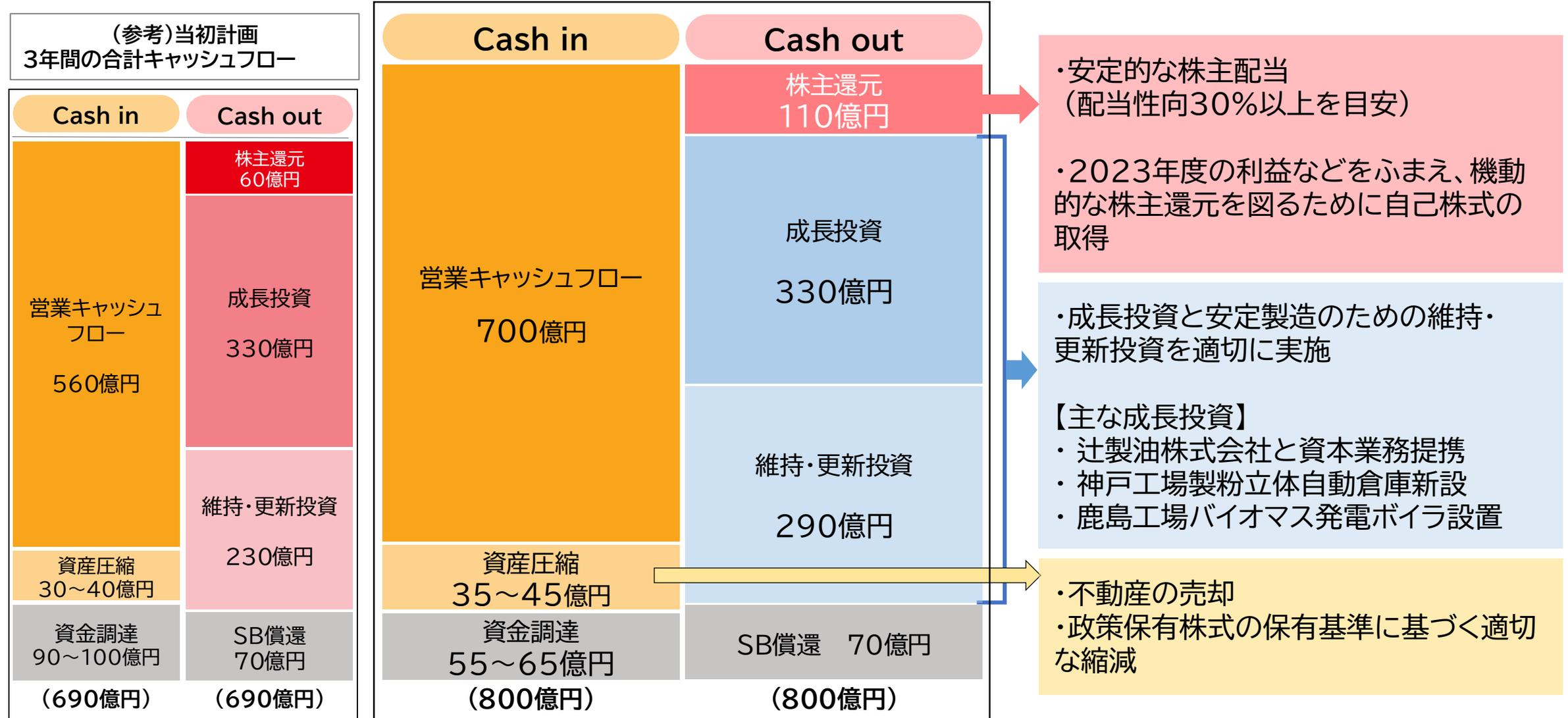
- ・「サステナビリティ基本方針」の実行
- ・事業所周辺での地域貢献、交流
- ・「穀育」の取り組み促進
- ・NPOと連携した「食の提供」

(成果・影響)

- ・WFPやフードバンクを通じた支援
- ・各事業所における地域社会との継続的対話

資金配分計画 [3年間累計] (2023年度～2025年度)

2023年度(2024年3月期)の実績および2025年3月期の見通し、ならびに資本政策をふまえて資金配分計画を見直し



設備投資および研究開発費

基盤事業の強化のための投資や成長領域への戦略的な投資を実施し、グループの持続的な成長を推進しております。

主な設備投資の内容 <2024年度(2025年3月期)>

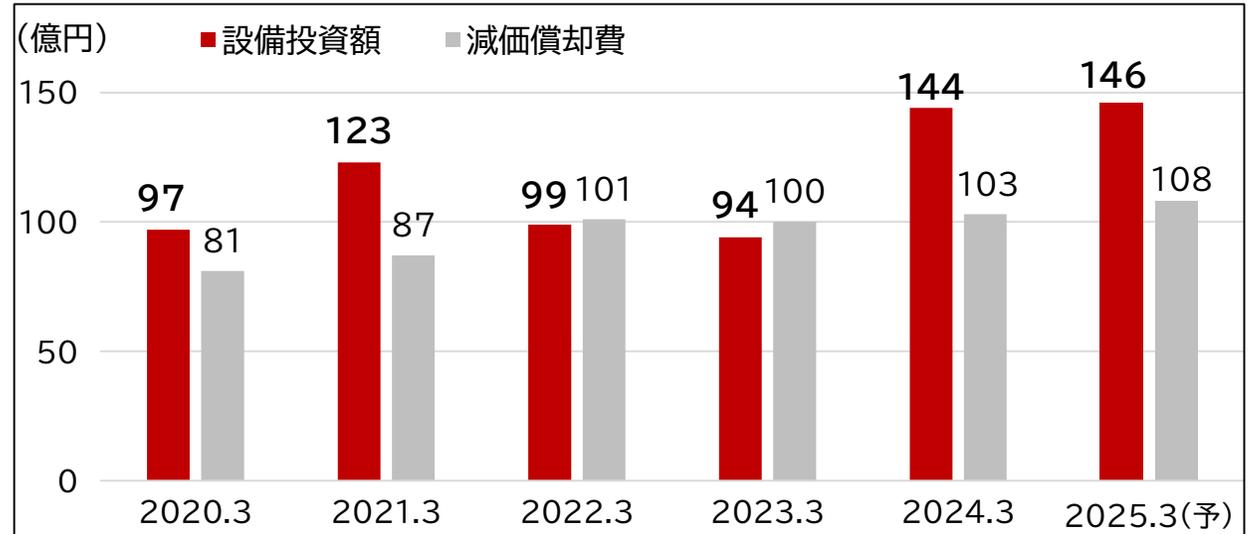
■成長投資

- ▶①製粉立体自動倉庫更新工事(2026年2月稼働予定)
→物流機能の改善・効率化
- ▶②バイオマス発電ボイラ新設(2026年度稼働予定)
→約3.7万トンのCO2排出削減見込み

■維持・更新投資

- ▶油脂精製設備更新
- ▶サンエイ糖化(株)設備更新

中期経営計画23-25期間 投資額**620億円**



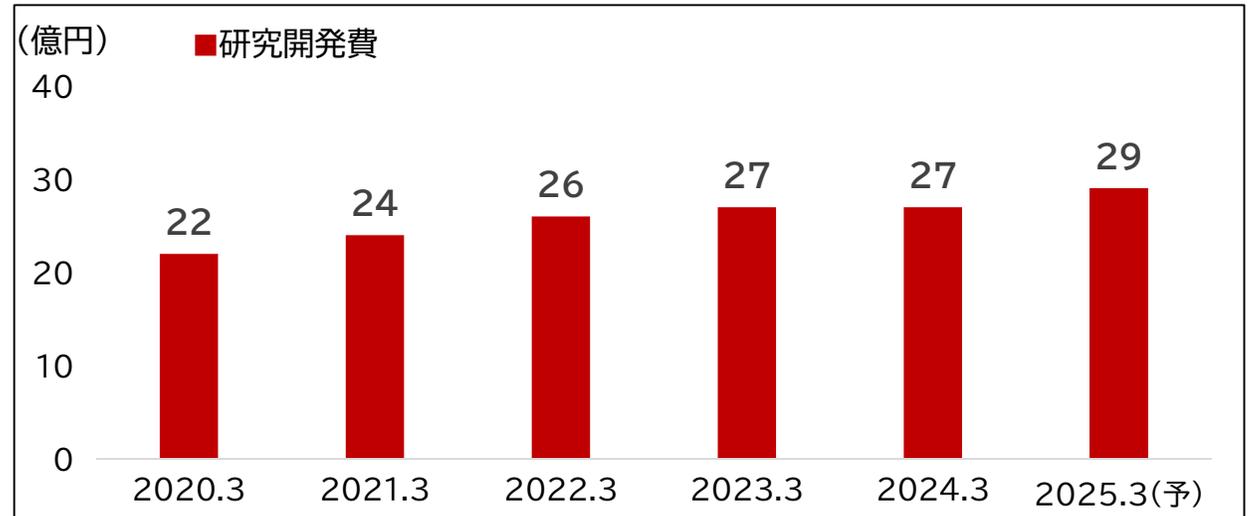
主な研究開発の内容 <2024年度(2025年3月期)>

■基盤事業の強化

- ▶CVS、外食をはじめとする多数のアプリケーション開発
- ▶新たな機能性をもつ小麦粉、油脂、糖質などの素材の高付加価値化に向けた研究開発の強化

■事業領域の拡大

- ▶プラントベースフードの開発強化
- ▶機能性素材の開発
- ▶化粧品分野への用途拡大に向けた研究開発



① 物流機能の改善および効率化に向けた取り組み



[完成予定図/2026年2月完成予定]

物流の2024年問題

- ・労働力不足
- ・ドライバーの労働時間への上限規制適用

グリーン物流

輸送拠点の集約などによるCO₂排出量削減

神戸工場内の製粉立体自動倉庫を更新・新設

② 環境負荷の低減への取り組み



鹿島工場に
再生可能エネルギーを活用した
バイオマス発電ボイラを新たに導入



年間約3万7,000tのCO₂排出量を削減



グループ全体で2013年度比37%以上の削減

Ⅲ. 業績予想・配当・優待制度

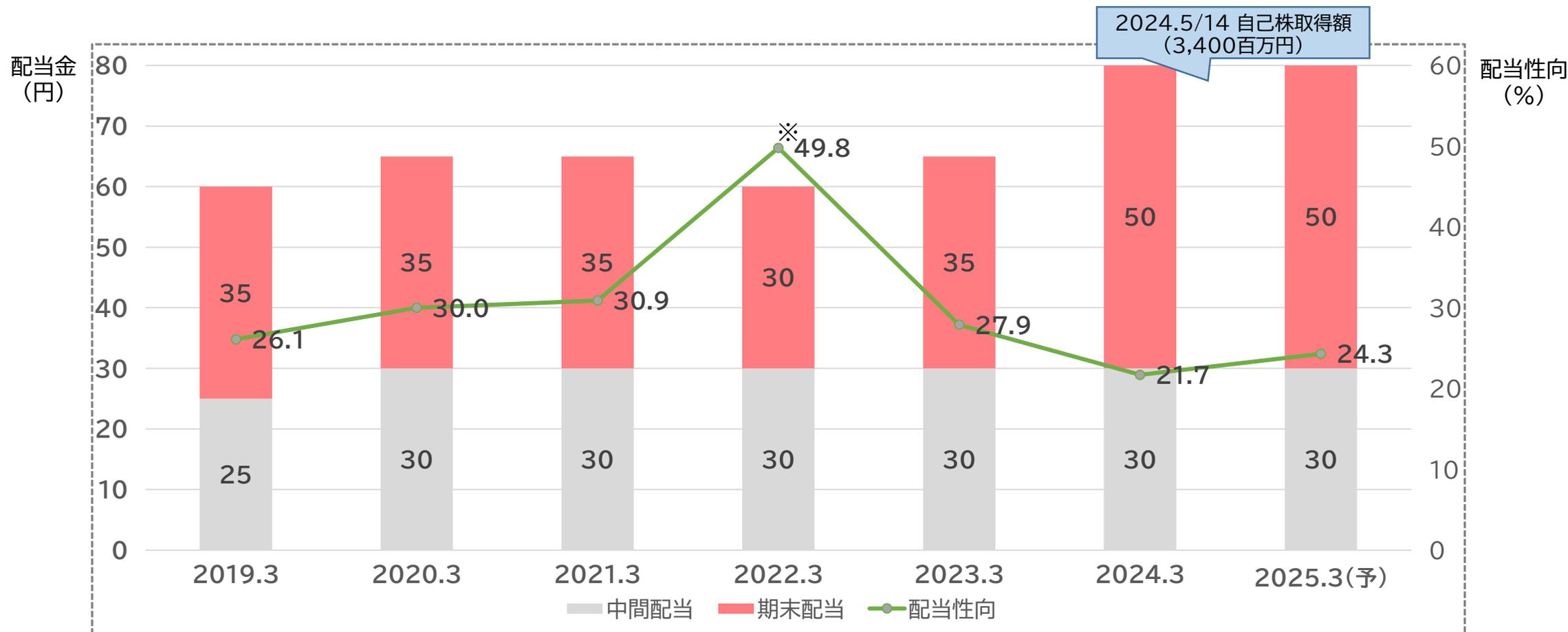
2024年度(2025年3月期) 業績予想

- ・売上高は、3,460億円とほぼ前年並みを予想
- ・営業利益は、物流費の上昇、人件費の増加などにより、前年同期比11億円の減益を予想

(億円)		2024年3月期	2025年3月期 (予想)	増減 (前期比)	増減率 (前期比)
売上高	食品	2,823	2,830	6	
	飼料	594	580	▲14	
	その他	45	50	4	
	計	3,463	3,460	▲3	▲0.1%
営業利益	食品	128	115	▲13	
	飼料	7	8	1	
	その他	13	13	0	
	全社費用他	▲17	▲17	-	
	計	131	120	▲11	▲8.7%
経常利益		165	130	▲35	▲21.5%
当期純利益		123	110	▲13	▲11.0%

株主還元について

利益の配分については、将来の企業成長に必要な投資と株主還元の充実を意識しながら
 配当性向30%以上を目標に**安定的な配当を継続**してまいります。



※2021年3月期の配当性向は、負ののれん発生益による影響を除く。ちなみに、負ののれん発生益による影響を含めた配当性向は20.3%

株主優待制度

弊社の事業をより一層ご理解いただくことを目的として
 株主優待制度を導入しております

対象	毎年3月末現在の株主名簿に記載された100株以上保有の株主様		
内容	100株以上200株未満 1,000円相当の当社 家庭用商品詰め合わせ	200株以上1,000株未満 3,000円相当の当社 家庭用商品詰め合わせ	1,000株以上 5,000円相当の当社 家庭用商品詰め合わせ
商品内容※	<p>■1,000円相当の例</p> 	<p>■3,000円相当の例</p> 	<p>■5,000円相当の例</p> 
発送時期	毎年6月下旬～7月上旬を予定		

※ 商品内容は
 毎年変更あり



見通しに関する注意事項

本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることから、その達成や将来の業績を保証するものではありません。

また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。

なお、将来における情報・事象及びそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当中期経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。

新たな経営管理指標として①ROIC、②CCCを導入し、財務KPIとして進捗を管理

① ROIC	事業の評価、経営資源の配分ルールを整備し、事業ポートフォリオマネジメントを高度化
② CCC	改善項目を定めて月次で管理し、キャッシュフロー経営を推進

		2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	中期経営計画23-25 計画目標
経常利益	(億円)	65	165	130
ROE	(%)	7.1※1	10.2	7.0以上
ROIC※2	(%)	1.8	5.3	4.0以上
CCC	(日)	91	87.3	75
NET D/Eレシオ		0.48	0.35	0.6以下

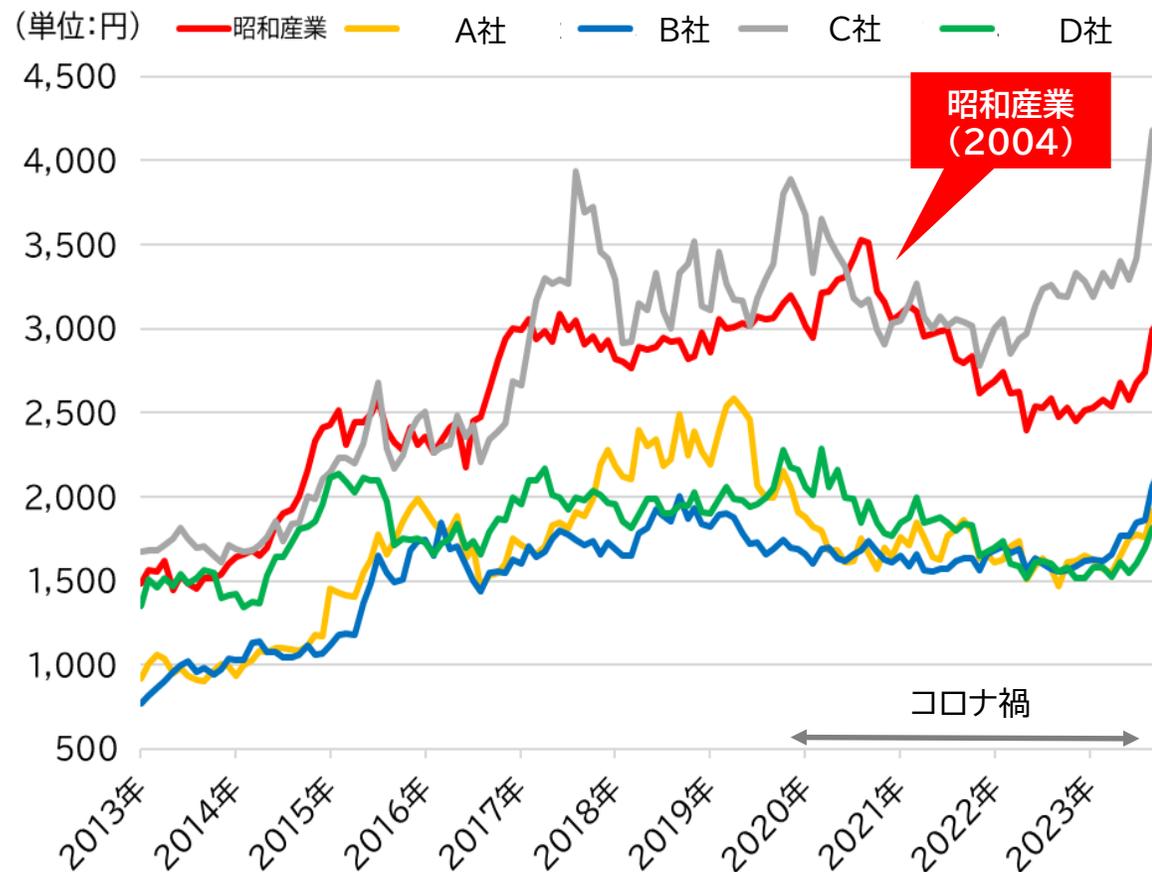
※1:2023年3月期は、ショーサン上尾ビルの売却により約52億円の固定資産売却益(特別利益)が発生

※2:ROICの定義 ROIC = 税引後営業利益 ÷ 投下資本(有利子負債(Net) + 自己資本)、税引後営業利益は、法人税等を営業利益の30%として計算

株価と時価総額の推移

株価の推移

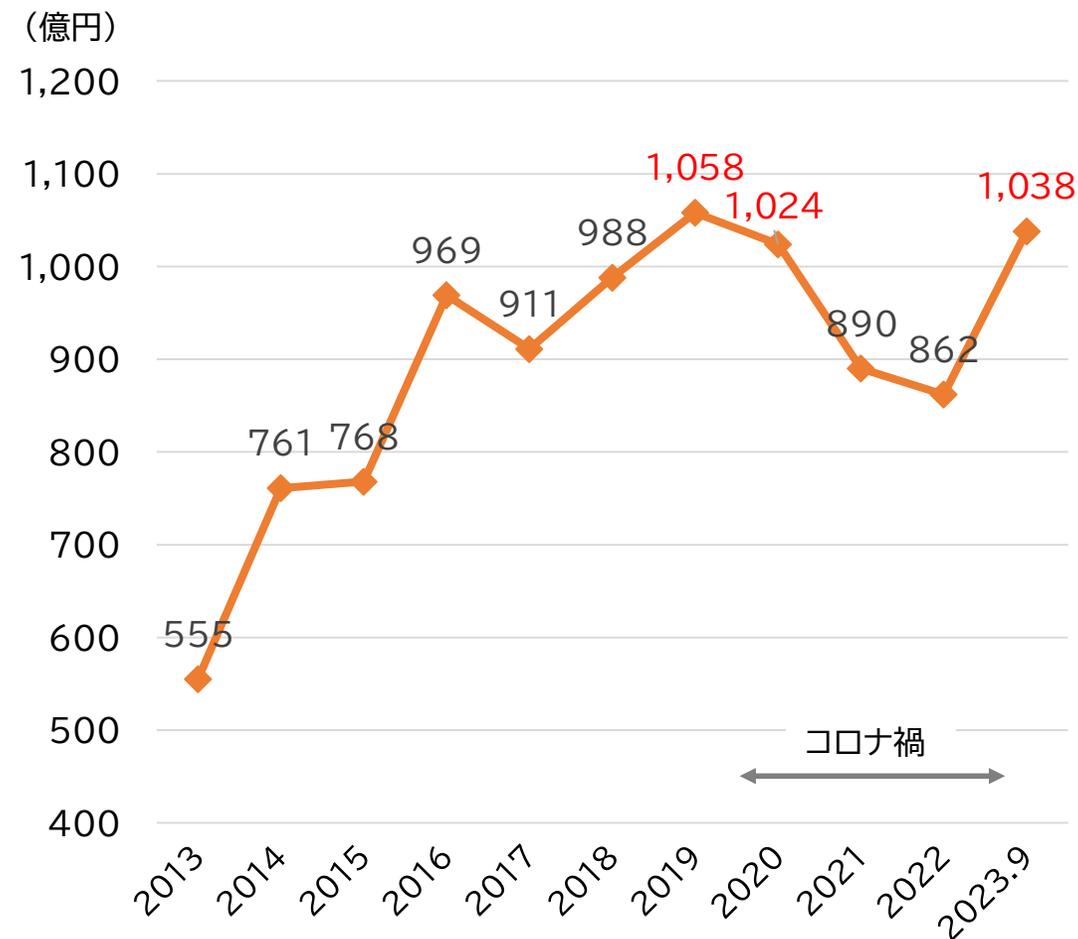
(2024年1月末時点)



※Yahooファイナンスより

時価総額の推移

(年度末終値ベース)



※当社調べ